

すずかけ



第41号 平成26年4月24日 発行／鳥取県立厚生病院 編集／院内広報委員会

医療改革元年

春冷えの4月1日、消費税が8%になり、社会の関心を引きつけました。もう一つの大きな制度改革も始まっています。社会保障・医療制度の改革です。医療制度はその本体が巨大で、日々の医療活動を停止できないため、連合艦隊と同様、大きな方向転換は難しいのですが、今回ばかりは連合艦隊（医療制度）がきしみをあげるような方向転換です。

基本的なコンセプトは「いつでも、好きなところで（フリーアクセス）、お金の心配をせず（国民皆保険＋高額療養費返還制度）、必要な医療を受けることができる（出来高払い）」から、「必要な時に適切な医療を適切な場所で、最小の費用で受ける」医療への転換です。

2025年には団塊の世代664万人が75歳以上の後期高齢者となり、高齢化率は30%を超えます。何もしなければ、現在の医療レベルは守れません。超高齢化社会を見据え、社会保障・医療制度の改革は実は待ったなし。限られた医療資源を活用し、国民皆保険制度は崩せない、とする国の決意が窺われます。その実現のため、病院や診療所に支払われる診療報酬の面から改革を進めようとしています。

柱となる改革のポイントは二つ。「地域包括ケアシステムの構築」と「病院機能の強化・明確化と連携」です。

前者では在宅医療の促進が色濃く反映され、「時々入院、ほぼ在宅」を目指しています。その実現には、訪問介護ステーション、老人ホーム、行政など地域のすべての医療資源を動員し、しかも、医療と介護を連動させることが求められています。病状が悪化した時のために入院できる病院の態勢を整えておく必要もあります。

医療が必要なのは高齢者ばかりではありません。少子化が進むからこそ周産期医療が重要となります。がん患者は増加していますが、働き盛りの患者さんもいます。病院機能の強化・明確化と連携が必要な理由です。

鳥取県立厚生病院は中部医療圏における唯一の公的医療機関として、県民の生命や健康を守るため、病病連携、病診連携を深化させつつ、主として診療密度の高い急性期医療を提供します。その準備はすでに始まっているのです。

院長 井藤 久雄

第41号の内容

巻頭言「医療改革元年」	…1	認定看護師のご紹介	…6
市民公開講座報告	…2	第22回鳥取医学賞を受賞して	…6
平成26年度市民公開講座のご案内	…3	看護の日	…7
電子カルテが新しくなりました	…4	新任医師、退職者の紹介	…7
糖尿病週間のご案内	…4	編集後記	…8
創立50周年記念事業報告	…5		

る肝がんのお話です。多量のアルコール摂取が肝臓に悪いことはご存じの方が多くと思います。是非この機会に飲酒習慣を見直してみましょう。一方、メタボリックシンドロームと肝がんの関係はあまり知られていません。糖尿病や脂肪肝が肝がんの危険因子になることがわかってきました。検診でメタボの項目や肝機能がひっかかった方、すでに糖尿病や脂肪肝の診断を受けておられる方、一度ご自分の肝臓の状態をよく調べてもらうことをおすすめします。

今回の講演が市民の皆様の健康維持、健康増進の一助となり、ひいては鳥取県のがん死亡、特に肝がん死亡率の改善につながっていくことを願っています。

○消化器内科 野口 直哉 部長（「大腸がんのお話」）

大腸がんは身近な病気です。日本人は一生生涯で大腸がんになる確率は男性で12人に1人、女性で15人に1人とされています。また、大腸がんで死亡する確率はそれぞれ34人に1人、45人に1人とのことです。

大腸がんになるリスクを上げる因子として、喫煙、アルコールの多飲、肥満、運動不足があげられています。また、リスクを下げるものとして、適度な運動や、野菜やくだもの摂取との関係がわかっています。また、遺伝リスクもあるようです。直系の親族（親やご兄弟などに比較的若いとき（50歳以下）に大腸がんが発生している場合はリスクが高いと言えます。

また、大腸がんはほかの部位のがんとくらべると、治りやすいがんです。より早い段階で見つけることが、重要です。なのに、日本人は平均で4人に1人しか検診を受けられていません。このため、大腸がんの死亡リスクが低下していません。

50歳以上の方は、毎年、大腸がん検診を受診していただき、異常を指摘された場合にはかならず、精密検査をうけていただくことが大切です。



平成26年度市民公開講座のご案内

【平成26年度の市民公開講座開催予定について】

地域がん診療連携拠点病院である当院では、5大がん（肺がん、胃がん、肝臓がん、大腸がん、乳がん）を中心としたがんの予防や早期発見、診断治療に関する市民公開講座を平成22年度から毎年開催しています。

また、生活習慣病についても市民公開講座を毎年開催し予防、診断治療の普及啓発活動に力を入れているところです。

平成26年度は、次のとおり市民公開講座の開催を予定しています。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

会場は倉吉交流プラザを予定しています。入場は無料です。

- ・ 7月13日(日) 大腸がんについて
- ・ 9月21日(日) 肺がんについて
- ・ 3月 8日(日) 生活習慣とがんについて

電子カルテが新しくなりました

当院では、平成26年3月1日に総合医療情報システムを更新しました。

総合医療情報システムは、医師の指示や記録を入力する電子カルテと、薬剤、検査、会計などの部門システムを接続して構築されたシステム群の総称で、迅速で正確な情報伝達、診療等に関する情報の共有化など、効率的で質の高い医療を提供するための診療基盤です。

当院の総合医療情報システムは平成19年5月に稼働しましたが、近年では老朽化による機器の故障や保存容量の枯渇、データ増加に伴う処理遅延など、様々な問題が生じていました。

今回の更新によって、全ての機器が最新のものに入れ替り、データの処理能力や通信速度などの性能が大幅に向上しました。また、ソフトウェアもバージョンアップし、過去カルテの表示機能、褥瘡対策や栄養サポートなどチーム医療への支援機能、災害等から診療データを守るデータバックアップ機能などが強化されました。

今後は、医療の質や診療サービスの向上、業務の効率化など、様々な面でシステムが役立つよう、運用面を含めた見直しを進めていきます。

医療情報管理室

糖尿病週間のご案内

11月14日が国際連合により「世界糖尿病デー」に定められていること、みなさんご存じでしたか。さらに、この日を含む1週間は毎年全国糖尿病週間として、全国各地で一般の方向けに糖尿病に関する啓発活動が行われています。

糖尿病委員会では当院においても同様の活動をしたいという思いから、全国糖尿病週間期間のうちの1日を使って、当院玄関ホールにおいて糖尿病週間行事を行っています。主な内容として



〈第5回糖尿病週間行事〉

にご参加ください。

としては、委員会スタッフによる血糖・血圧の測定、肥満度・1日に必要なカロリー量の計算などの健康チェックの他、フードモデルを使った食事量とカロリーの確認、カロリーに関するクイズ、各種パンフレット展示、さらには医師や各職種による生活指導を行っています。

昨年度は第5回目の開催で、約70名の方の参加がありました。

本年度も開催予定ですので、みなさんお気軽

創立50周年記念事業報告

厚生病院は昭和38年4月に県立となってから50年が経過しました。この節目の50周年を記念して、また、今後の地域医療への貢献と病院の発展を願って、記念式典と祝賀会を開催し、記念誌を発行しましたので報告します。

1 記念式典及び祝賀会

1) 記念式典

日 時 平成25年11月23日（土・祝）

15:00～16:30

場 所 新日本海新聞社中部本社ホール

出席者 157人

平井知事の挨拶、豊島鳥取大学長、魚谷県医師会長、石田倉吉市長の祝辞に続き、医師で詩人である宋敏鎬先生の記念講演を行いました。



△平井伸治知事

<宋敏鎬先生



2) 記念祝賀会



日 時 平成25年11月23日（土・祝）

17:00～19:00

場 所 倉吉シティホテル

出席者 119人

柴田県営病院事業管理者の挨拶に続き、松田中部医師会長の乾杯でスタートし、先輩方の思い出話や現職員の部門報告を行い、盛大な祝賀会となりました。

2 記念誌発行

記念誌編集のため、院内各部門代表よりなる編集委員会を設置し、阿藤編集委員会委員長のもと、第1回委員会を平成24年10月16日に開催しました。12回に及ぶ委員会により、記念誌の内容、執筆者、寄稿者への依頼、原稿の取り纏めなどを行い、平成26年3月に記念誌発行の運びとなりました。

《記念誌の内容》

病院の全景写真、巻頭言、院長挨拶、病院の歴史、先輩諸氏の思い出、現在の職員による病院各部門の紹介、委員会活動、業務統計等のほか、記念式典での知事挨拶と記念講演の様態も収録しています。

事務局長 飯田 綾子

認定看護師のご紹介〈がん化学療法〉



がんの治療は、「手術」「放射線」「抗がん剤」の3つの治療を組み合わせで行われます。日本人の二人に一人ががん罹患すると言っても過言ではない昨今、抗がん剤治療（がん化学療法）を受けられる患者さんの数は年々増加し、使用する抗がん剤も次々に開発されています。がん化学療法は、大なり小なり副作用の出現が不可避な治療方法であり、使用する

抗がん剤や、治療を受けられる方によって症状の出方や程度は様々ですが、適切な支持療法（副作用の予防や症状の軽減を図る治療）を同時に行うことで、苦痛なく、または少ない状態で、外来通院でも治療を継続することが可能となってきています。また、治療を受けられる方が抱えられている問題も多様化し、個別性のあるきめ細やかな対応が必要な状況でもあります。

このように多様化する状況に対応すべく、がん化学療法看護認定看護師は、抗がん剤を用いた治療を受けられる方が「安全に」「安楽に」「確実に」治療を受けていただくための支援について専門的な知識・技術を学び、日本看護協会から資格認定された看護師です。

当院には、2名のがん化学療法看護認定看護師（外来治療室1名、病棟1名）が在籍し、院内外の看護スタッフへの指導や患者さんの看護にあたっています。治療に携わる医師・薬剤師・他分野の認定看護師・医療ソーシャルワーカー等と連携を図りながら、質の高い看護を提供させていただきますので、お気軽にご相談ください。



がん化学療法看護認定看護師 杉本 咲月

第22回鳥取医学賞を受賞して

3月15日鳥取医学賞を受賞いたしました。受賞対象論文は「当院不妊外来における治療成績と年齢との関連」と「当院における配偶者間人工授精（AIH）の治療成績と精子所見との関連」ですが、その要旨をお話いたします。

近年、晩婚・晩産化のために、妊娠・出産適齢期を逃し、不妊に悩む方が増えています。不妊治療による妊娠率は、29歳を境に高年齢になるにしたがって低下することがわかりました。奇しくも平均婚姻年齢と同じでした。さらに40歳以上になると、体外受精-胚移植などの高度生殖補助医療（ART）をしても挽回しきれません。卵巣機能が低下する前に治療することが大切です。

男性側もストレスなどにより精子数の減少が叫ばれています。人工授精を行う時、運動精子数が極端に少ない（200万匹以下）と妊娠しにくいことが確認できました。

安心して出産・育児が営める社会環境を行政一体となって整えていきたいものです。

産婦人科部長 大野原 良昌

看護の日

看護の日フェア
～笑顔でつなぐ看護の架け橋～

5/12(月)～5/16(金)
展示コーナー... 正面玄関ホール
病棟紹介、働くお父さん・お母さんの似顔絵

5/16(金)
<9時～12時>
体験コーナー... 正面玄関ホール
手洗いチェック

<14時～14時30分>
ミニコンサート... 外来棟5階大会議室
365歩のマーチ
ありがとう
栄光の架け橋

鳥取県立厚生病院 看護局

フローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日は「看護の日」。“看護の心をみんなの心に”をメインテーマに、その日を含む期間を看護週間とし、全国各地でイベントが行われています。

当院では『笑顔でつなぐ看護の架け橋』をテーマに、看護についての関心や理解を深めていただくためにイベントや展示を行います。

展示では、看護師の子どもたちに描いてもらったお父さん・お母さんの絵や各病棟の紹介を行います。また体験コーナーでは、普段行っている手洗いに着目して、手洗い後を手洗いチェッカーでチェックする体験を行います。ミニコンサートでは、患者様やご家族と一緒に歌いながら体操したり、懐かしのメロディーを合唱しながら手話をする予定にしています。

皆様に楽しんでいただけるよう企画していますので、多くの方の参加をお待ちしています。

看護局副局長 石原 幸恵

新任医師紹介

外科
西村 謙吾(医長)

四月一日付



【ひとこと】
厚生病院で生まれ、四歳まで倉吉で過ごしました。平成十四年度に一度勤務し、平成二十六年四月に鳥取県立中央病院から赴任しました。腹部と四肢の動脈・静脈といった血管疾患の治療を中心に地域医療に貢献できるように取り組むつもりです。よろしくお願いします。

消化器外科
三宅 孝典(副医長)

四月一日付



【ひとこと】
鳥取県立中央病院より来ました。倉吉での勤務は初めてとなりますが早く倉吉の地域に慣れ、厚生病院の一員として医療に貢献したいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

麻酔科

高垣 知伸(副医長)

三月一日付



退職者
医師

麻酔科

森山 直樹(二月末付)

消化器内科

万代 真理(三月末付)

外科

小林 太(三月末付)

消化器外科

岩本 明美(三月末付)

消化器外科

漆原 正一(三月末付)

放射線科

橋本 政幸(三月末付)

消化器外科

荒井 陽介(四月十三日付)

研修医

藤井 政至(三月末付)

長期勤続退職者(二月末付)

中央検査室

谷尾 進司

看護局

秋下 加代子

會見 真里

金元 祐子

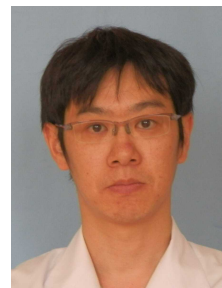
事務局

山崎 恵子

お世話になりました

新任医師紹介 (4月1日採用)

消化器外科
谷口 健次郎(医長)



【ひとこと】
鳥取大学第一外科に入局して消化器外科を専攻してから十五年目になります。今まで鳥取、島根の病院で勤務しこの四月から厚生病院に勤務する事となりました。微力ですが皆様のお役にたてるようがんばりますのでよろしくお願いたします。

消化器外科
村上 裕樹(専攻医)



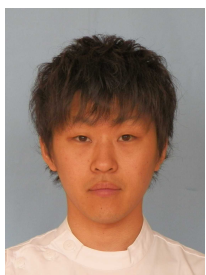
【ひとこと】
鳥取大学消化器外科から参りました。医師としての経験はまだ浅く、皆様にご迷惑をかけることも多いとは思いますが、少しでも役に立てるよう努力していきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

外科
大野 貴志(専攻医)



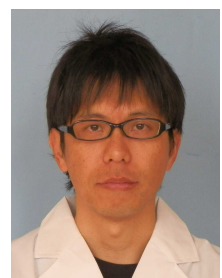
【ひとこと】
今年で五年目になります。出身は出雲市です。スノーボードとネコ、しまねっかが好きです。初心を忘れず、常に患者様のことを考えて、一生懸命、日々の診療に臨んで参ります。

消化器内科
木下 英人(専攻医)



【ひとこと】
鳥取大学卒業後、松江赤十字病院での二年間の初期臨床研修を終え、四月から厚生病院で働かせていただくことになりました。まだまだ未熟ですが、日々精進してまいりますので、よろしくお願申し上げます。

放射線科
山本 修一(副医長)



【ひとこと】
四月からお世話になります。出身は国府町です。鳥取大学、兵庫八鹿病院、鳥取大学と勤務して立ってよう頑張りますのでよろしくお願いたします。

内科
角 啓佑(副医長)



【ひとこと】
鳥取大学医学部付属病院からまいりました。これまでずっと大学病院勤務でしたので、色々戸惑うことが多いですが、皆様に親切にして頂いて徐々に慣れていけそうです。ご迷惑をおかけすることもありますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

(編集後記)

先日、家族旅行で遊園地をおとすれました。当日は20年ぶりに東京が大雪に見舞われ、園内も一面の銀世界でした。少しの雪なら素敵でしょうが、大雪では園内を移動するにも疲れ、遊具も大半が運行できないという遊園地としては厳しい状況だったと思います。

しかし、従業員の皆さんに笑顔で心地よい対応をしていただき、普段なら味わえないであろう期待以上のサービスもうけることができ、大変満足しました。のちに知ったのですが、その遊園地には接客対応マニュアルというものはなく、従業員の皆さんは、自分の行動を園内で行われるショーの一部であるという意識を持って常に行動しているとのことでした。

職場での自分の振る舞いについて、他の職員を含めた全体のサービスの一部であるという意識を持って行動すると、より良い「お・も・て・な・し」が自然とできるのかもしれないと思った寒い寒い日の体験でした。

(瀧田)

発行 〒682-0804
鳥取県倉吉市東昭和町150番地
鳥取県立厚生病院 (電話 0858-22-8181(代))